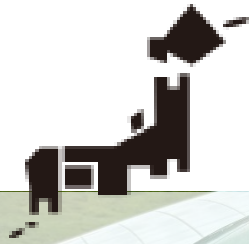


先輩職員のMY就活



R7年採用ペンネーム アシラフィ

最終学歴 (学部既卒)

専門 (都市・土木工学系) 試験区分 (総合職：工学)

○国土地理院の志望動機

職員自らが専門性を高く持ち、内側を起点として企画立案するという話を伺い、仕事に対する前向きな姿勢が感じられ、自分もこういう意識で働ける環境に身を置きたいと思いました。

また、国民一人一人が生きていく上でなくてはならない業務内容であることも魅力の一つでした。

○ 国家公務員試験・官庁訪問について（対策）

■ 試験対策はいつ頃からはじめたか

2023年（R5年）12月頃。

■ 基礎能力試験に対してどのように対策をしたか

1, 2問しか出ないと思われる科目を対策することはタイプが悪いと判断し、数的処理や判断処理など、問題数が多い科目を重点的に対策しました。

■ 専門試験に対してどのように対策をしたか

一次試験は土木関連の市販の問題集で対策していましたが、「技術論」や「工学基礎実験」等比較的解きやすい問題の過去問は数年分ほど覚えました。

二次試験は、過去問を取り寄せて「信頼性工学」と「河川工学」をひたすら解いて対策しました。わからないところは生成AIに教えてもらっていました。

■ 面接に対してどのように対策をしたか

他省庁の官庁訪問経験者の先輩や家族に面接官役をお願いしました。

特に自分の経歴や特徴などはすらすら話せるようにしました。

■ 試験勉強での戦略

工学区分であれば「技術論」や「工学基礎実験」で数問稼ぐのがおすすめです。

TOEIC加点は使った方が良いでしょう。

○国家公務員試験・官庁訪問について（対策）

■官庁訪問までに準備したこと

地図と測量の科学館に足を運んで、業務内容について勉強しました。

また、国土地理院公式SNSを見るようにしていました。

■官庁訪問・面接の印象

終始和やかな雰囲気です、とても話しやすかったです。和やかすぎて逆にどこを見られているのかよくわかりませんでした。

○国土地理院のインターンや業務説明を受けて感じたこと

職場の雰囲気の良さや専門性の高さを感じました。また、地理学関連以外を専攻していた方も多いことを知り、入省してからの研修内容が充実しているんだろうなと感じました。

先輩職員のM Y就活



R7年採用ペンネーム えだまめ

最終学歴 (学部新卒)

専門 (工学系) 試験区分 (総合職：化学・生物・薬学)

○国土地理院の志望動機

B3のときに参加したインターンシップで、国土情報の整備によって国土を守り、多くの技術を支える業務に強く惹かれたため。また、防災・減災に迅速かつ直接的に関われる点にも魅力を感じ志望した。

○国家公務員試験・官庁訪問について（対策）

■ 試験対策はいつ頃からはじめたか

B3の春から

■ 基礎能力試験に対してどのように対策をしたか

市販の参考書と過去問題集を使って量をこなした。中でも数的推理と判断推理は継続して取り組むようにしていた。時事と情報はYouTubeの動画やインターネットで検索して対策をした。

■ 専門試験に対してどのように対策をしたか

自分の専門と試験内容が異なっていたので、大学で本を借りて学ぶことから始めた。

B3の秋から過去問に手をつけ始め、傾向と解答解説をまとめた。記述の勉強は1次試験が終わる頃までほぼ行えず、1次試験終了後に過去問と参考書に取り組んだ。

■ 面接に対してどのように対策をしたか

OB・OG訪問や説明会などでどのような質問があったかを仕入れ、キャリアセンターで模擬面接を繰り返し行った。参考書は入室の仕方や、座り方などの確認に使用した。

■ 試験勉強での戦略

総合職も一般職も年度は異なっても類似した問題は多くあるので、過去問の量をこなして傾向をつかむ。

○国家公務員試験・官庁訪問について（対策）

■ 官庁訪問までに準備したこと

説明会やインターンでもらった資料やHPの内容を読んでいた。また履歴書に書いた内容について、なぜそう考えるのかをひたすら書き出した。

■ 官庁訪問・面接の印象

官庁訪問が始まると、連日面接をすることになるため、もっと前から準備をしておくべきだったと感じた。自分の考えを伝えようと必死に話すよりも、「素直に話す・聞く」ができた時の方が面接官に伝わったと感じた。

○**国土地理院のインターンや業務説明を受けて感じたこと**
インターンシップに参加することで、実際に自分が働くイメージをつかむことができた。また職員の方が穏やかで職場の雰囲気の良いのだと感じた。

○自身の就職活動を振り返って

■就職活動中の悩みや不安とその対処法は？

周りに公務員試験を受ける人がおらず、現状の勉強方法で合格できるのかが常に不安だった。説明会で聞いた話から勉強法を見直したり、解けるようになった問題や勉強時間を可視化して対処していた。

■就職活動中のリフレッシュは？

就活を気にせず遊ぶ日を作っていた。不安や悩みをずっと考えていると落ち込みすぎてしまうので、無理にでも切り離すようにしていた。

■自己分析をする上での私のおすすめ

キャリアセンターでの面接練習・就活相談。自分の中で曖昧な部分を相談できる機会になり、客観的に自分を見ることができた。

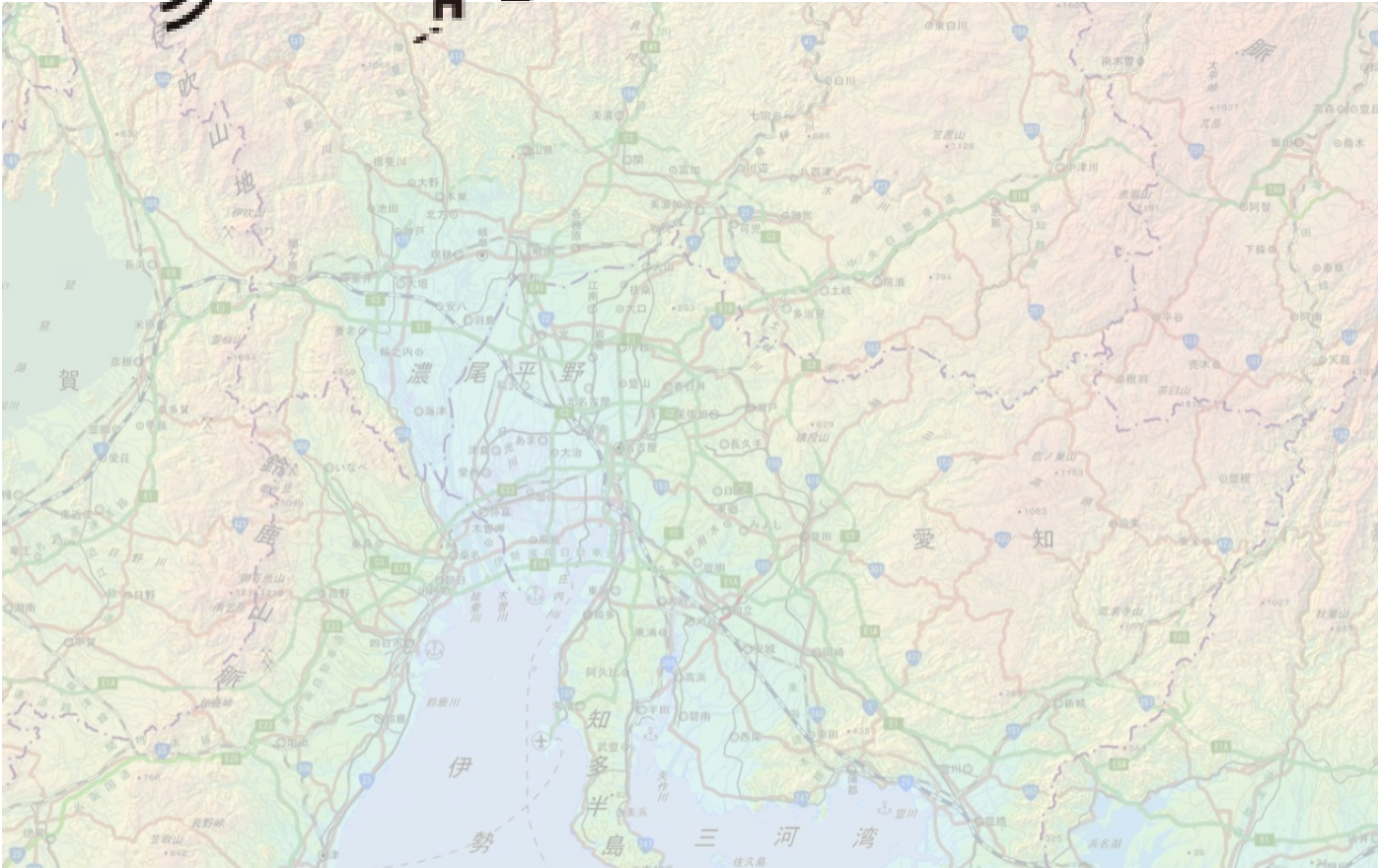
■過去の自分へのアドバイス

勉強も面接も気負いすぎずにやってください。緊張はするけど、なんとかなります。

○職場としての国土地理院の魅力

疑問点を聞きやすく、普段から職員同士でコミュニケーションがとりやすい雰囲気を作られている。

先輩職員のMY就活



R7年採用ペンネーム によ

最終学歴 (修士新卒)

専門 (地理学系) 試験区分 (総合職：森林・自然環境)

○国土地理院の志望動機

学生時代から地理院地図を利用しており、その提供元である地理院で働いてみたいと思ったから。また、自然災害伝承碑のデータ公開やハザードマップポータルサイトの運営等、防災関連の業務にも興味があり、志望した。インターンに参加した際に、職場の雰囲気の良いさを感じたのも決め手だった。

○国家公務員試験・官庁訪問について（対策）

■ 試験対策はいつ頃からはじめたか

基礎能力試験対策はM1の夏、専門試験対策はM1の冬

■ 基礎能力試験に対してどのように対策をしたか

総合職向けの参考書は難しすぎたので、一般職・地方上級を対象とした参考書から取り組んだ。しかし、問題傾向が若干異なるため、総合職の過去問で傾向を確認しながら進めた。

■ 専門試験に対してどのように対策をしたか

過去問の解答解説を、森林・林業白書/実務必携、過去問、関係省庁のWebサイトを参照して自分で作成しつつ、出題傾向の分析を行った。また、出題頻度が高い内容についてはノートにまとめ、試験直前に確認できるようにした。

■ 面接に対してどのように対策をしたか

国家公務員志望の友人と、面接カードの添削をしたり想定問答を考えた。

■ 試験勉強での戦略

得意な暗記で乗り切れる森林・自然環境を選択した。

■ 官庁訪問までに準備したこと

自分の今までの経験を振り返り、志望先の業務内容と絡めながら志望動機を考えた。一緒に働きたいと思ってもらうにはどうすれば良いかを常に考えていた。

■ 官庁訪問・面接の印象

温かい雰囲気でした。変化球の質問も特に無かったので、落ち着いて思いを伝えることができた。

○国土地理院のインターンや業務説明を受けて感じたこと

職員の方々が自身の業務に誇りを持ち、楽しそうに取り組んでいる様子が印象的だった。インターンで1週間過ごした際に居心地が良く、ここなら長く働けるかもと感じた。

○自身の就職活動を振り返って

■ 就職活動中の悩みや不安とその対処法は？

本当に合格・内定できるのかが不安だった。合格する前提、内定をもらえる前提で、その未来のために今やるべきことを整理し、一つ一つ実行した。

■ 就職活動中のリフレッシュは？

全く違う世代の人と交流する。ライバルになり得ない人と接した方が、考えがフラットになる。

■ 自己分析をする上での私のおすすめ

自分の年表を作って人生を振り返る。

■ 過去の自分へのアドバイス

なるようになるので、気負いすぎないように！

○職場としての国土地理院の魅力

温かい雰囲気ですべて落ち着いて仕事ができる。専門性の高い業務も多く、他部署の方と話すだけでも新たな発見が多くて面白い。

先輩職員のMY就活



R7年採用ペンネーム ウーロン

最終学歴 (修士新卒)

専門 (土木工学系) 試験区分 (総合職：工学)

○国土地理院の志望動機

元々好きだった地理・地図と、大学の専攻である土木（防災）の両方に携われる国土地理院に興味を持った。地図を通して防災に貢献できることに魅力を感じたから。M1の1月に参加した職場見学で職員の雰囲気の良いさを感じたため。

○国家公務員試験・官庁訪問について（対策）

■ 試験対策はいつ頃からはじめたか

M1の2月

数か月早く始めておけばよかったと後悔した。

■ 基礎能力試験に対してどのように対策をしたか

過去問を中心に勉強した。民間企業のweb試験を何度か受けており、時間内に多くの問題数をこなすという形式に慣れていたことが活かしたと感じた。

■ 専門試験に対してどのように対策をしたか

過去問10年分と教科書や参考書を使用した。水理学は、教科書を使い、出題されやすい問題の解法を見直した後に、過去問を繰り返し解いた。衛生工学は、過去問を使つての暗記と派生する分野の学習を行ったり、上下水道の参考書を読み込んだ。初めは暗記ばかりだが、5年分ほど解くと自力で解ける問題が増えてくるように感じた。

■ 面接に対してどのように対策をしたか

研究室の先輩に面接カードを見ていただいたり、大学のキャリアセンターの方に何度も添削していただいた。唐突な質問に弱いと感じていたため、できる限りたくさんの想定質問と回答を用意した。

■ 試験勉強での戦略

1次試験は問題形式に慣れたり難しい問題を捨てたりなど、試験解法に慣れることが重要だと感じ、毎日過去問に触れることを心掛けた。2次試験は計算量が多い科目だけではなく、暗記のウエイトが大きい科目も対策した。

○国家公務員試験・官庁訪問について（対策）

■ 官庁訪問までに準備したこと

地理院の採用情報ページを見たり、業務説明会に足しげく通うことで、自分が携わりたい業務とそこへの自分の能力の活かし方を整理した。

■ 官庁訪問・面接の印象

待ち時間はあまりなく、到着後ほどなくして面接が開始した。控室の職員の方が気さくに話しかけてくださり、緊張がほぐれたと感じた。

○国土地理院のインターンや業務説明を受けて感じたこと

穏やかな口調・雰囲気の方が多く、一人一人の質問に対して丁寧に答えている姿が印象的だった。

○自身の就職活動を振り返って

■ 就職活動中の悩みや不安とその対処法は？

就職活動を通して、唐突な質問に上手く答えられるかどうか不安だった。面接に備えて可能な限り質問を想定し、友人や国土交通省を受けた先輩からも質問のネタを集めた。

■ 就職活動中のリフレッシュは？

時間を決めてYouTubeを見たり、散歩をしてESの内容をぶつぶつ唱えたりした。官庁訪問中は休日に電車で遠出したり、温泉へ行ったりした。

■ 自己分析をする上での私のおすすめ

長所の裏返しとしての短所を考える。友人や先輩、キャリアセンターの方など第三者からの率直な意見を真摯に受け止める。

■ 過去の自分へのアドバイス

試験対策のような大変なことこそ、億劫にせずまずちょっとだけ手を付けることから始めてみてください。

○職場としての国土地理院の魅力

業務に集中するときと職員間のコミュニケーションを重視するときのメリハリがあること。行政でありながら、国土地理院でしか身に付けられないような高度な専門技術に触れられること。